

中国におけるシェイクスピア戯曲の翻訳と出版

夏 嵐

—

シェイクスピアの名をはじめて中国で紹介したのは宣教師たちである。清の咸豊6年(1856)、上海墨海書院の出版した『大英国誌』には、次のように記されている。

エリサベス時代には、詩文が最高の境に達し、いまだにそれを超える時代はない。知識人では、錫的尼(Sidney)、斯本色(Spenser)、拉勒(Lyly)、舌克斯畢(Shakespeare)、培根(Bacon)などが有名である¹⁾。

(ローマ字は筆者)

これが中国語によるシェイクスピアへの初めての言及であり、シェイクスピアは「舌克斯畢」と表記されている。このようにシェイクスピアは、清末になってはじめて中国でその存在が知られるようになったのだが、民国以降、さらに頻繁に取り上げられるようになり、「簡斯比耳」、「沙基斯庇爾」、「索士比爾」、「夏克思芭爾」、「希哀苦皮阿」、「葉斯壁」、「沙克皮爾」、「狹斯丕爾」など多くの表記が用いられた。現在一般に用いられる「莎士比亞」という表記は、梁啓超の『飲氷室詩話』にはじまるとされる。

しかし、シェイクスピアの作品が中国に最初に紹介されたのは、戯曲という形ではなかった。上海の達文出版社が1903年に出版した『英国索士比亞：澗外奇譚』は、ラム姉弟の「The Tales of Shakespeare」の中から10編を選訳したものだが(訳者不詳)、中国読者のなじみの深い章回小説の体裁をとっていた。その後、林纾と魏易がラムのこの作品を全訳し、光緒30年(1904年)7月に、『英国詩人 吟辺燕語』と題し、商務印書館から出版した。英語の分からない林纾だが、魏易の口述を聞いて、一篇あたり数百字の小説にしたのである。20篇の作品はそれぞれ、次のように中国語の題名がついている。

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 肉券 (The Merchant of Venice) | 2. 馴悍 (The Taming of The Shrew) |
| 3. 孛誤 (The Comedy of Errors) | 4. 錘情 (Romeo and Juliet) |
| 5. 仇金 (Timon of Athens) | 6. 神合 (Pericles) |
| 7. 蠱征 (Macbeth) | 8. 医諧 (All's Well that Ends Well) |
| 9. 獄配 (Measure of Measure) | 10. 鬼詔 (Hamlet) |
| 11. 環証 (Cymbeline) | 12. 女變 (King Lear) |
| 13. 林集 (As You Like It) | 14. 礼哄 (Much Ado about Nothing) |

15. 仙猿 (A Midsummer Night's Dream) 16. 珠還 (The Winter's Tale)
17. 黒翳 (Othello) 18. 婚詭 (Twelfth-Night)
19. 情感 (The Two Gentleman) 20. 颯引 (The Tempest) ²⁾

(ローマ字は筆者)

『英国詩人 吟辺燕語』はその後再版を重ねるが、いずれも初版時の文体のままである。この本は広く読まれ、作家や評論家の中にも、この本を読んではじめてシェイクスピアを知ったと認める人が多い。ほかにも、シェイクスピア戯曲の物語を語り直した人がいるが、それもまた文言体の小説の形であり、シェイクスピア作品の真の姿を伝えているとは言いがたい。しかしこれによって、物語の筋が広く知られるようになり、英国詩人シェイクスピアという名も、まったくなじみのない存在ではなくなったのは事実である。この意味では、『吟辺燕語』のもつ意義は高く評価されるに値する。

舞台のほうでも、戯曲の翻訳と時を隔てずして、シェイクスピア劇らしきものが現れていた。学校演劇として、学生達が遊芸会で英語でシェイクスピア劇を演じたのが恐らく最初だが、断片的な上演か、限られた範囲での上演なので、それほどの影響は無かったかもしれない。しかし19世紀末から20世紀初期にかけて興起した早期話劇の「文明戯」の舞台では、シェイクスピア劇が一般大衆に向けて、盛んに演じられていた。「文明戯」の舞台では、幕表制、つまり、脚本が存在せず、事前に簡単にまとめられてあるあらすじだけに沿って、役者が即興で演じるのが主流であった。このため、現在では、果たしてどの作品が、どのように演じられていたかを、正確に知りうる資料はもはや存在しない。しかし『新劇考証百出』により、ある程度の状況が推測できと思われる。文明戯劇団の主宰者でもある編集者の鄭正秋が、それまでの文明戯の舞台で演じられたものをあらすじで記してくれている。それは『新劇考証百出』として、1919年に上海で出版されており、その中の「西洋新劇」の部には、「莎士比亞所編名著」として、20種が記されている。ではその一つである「巫禍」を、例として挙げてみよう。

事略 蘇格蘭大臣馬伯司。信巫言。弑其王膝甘而自王。後卒死於其仇馬德夫之手。亦巫所予言也³⁾。

(あらすじ スコットランド大臣馬伯司、巫の言うことを信ず。王膝甘を殺害し、自ら王となる。後に敵の馬德夫の手に死ぬ。これも巫の予言した通りである。)

(日本語訳は筆者)

きわめて簡潔なすじしか記されていないが、これは「マクベス」であろうと断定してもよからう。つまり、「巫禍」という中国語題名の付いた劇がすなわち「マクベス」の翻訳(翻案かもしれない)であって、それは文明戯の舞台で演じられていたと、言えるだろう。

また、「窃国賊」という劇が劇団「葉風新社」(鄭正秋主宰)によって舞台に出されていたという。これは「マクベス」の翻案で、当時の袁世凱の復辟を暗に風刺したものだという説もある。

る⁴⁾。この説が正しければ、「マクベス」をはじめ、シェイクスピア一つの劇には複数の題名、複数の翻訳（翻案）本、あるいは演じ方があったとも考えられる。

シェイクスピア作品が中国に初めて輸入された過程を、もっと大きな背景の中で見てみよう。中国における最初の外国戯曲の翻訳は、パリにあった出版社「万国美術研究社」が1908年に刊行した李石曾翻訳のポーランド作家Leopold Kampfの劇作品「夜未央」(Am Vorabend)だと考えられる。一方、中国最初の文学雑誌、大手新聞社「申報」の刊行する『瀛寰瑣記』が⁵⁾、はじめて蠡勺居士の翻訳した外国小説『昕夕閑談』を載せたのは1873年1月で、翻訳劇より、三十数年早いわけである。小説の形をとって中国に入ってきたシェイクスピア作品は、最初の翻訳小説より遅く、最初の翻訳劇より数年早い、という中間の時間帯に位置する。本来なら、徐々に多くなってきている翻訳作品の中の一つに過ぎなかったが、宣教師たちの宣伝・紹介もさることながら、何よりも作品自体に魅力があり、きわめて不完全な翻訳・紹介でありながらも、夙に人々の注目を引く存在となっていた。また、「小説に似てはいるが小説ではないし、また小説ほど面白くもない」⁶⁾と酷評されるほかの、読み物としての翻訳劇と違って⁷⁾、シェイクスピア作品は物語自体の面白さが際立っていたため、最初から上演される機会も多く、そのため、より人気を博することになった。このようにして、シェイクスピア作品は中国に紹介されるや否や、特別なものとなった。ちなみに、最初に戯曲の形でシェイクスピアの作品として発表されたのは恐らく包天笑が「ベニスの商人」を翻案した「女律師」で、1911年2月、上海城東女学社の刊行する雑誌『女学生』に掲載された。

二

中国で、完全な戯曲の形式でシェイクスピア作品が現代白話に翻訳されたのは、「五四」新文化運動以降のことである。外国戯曲の翻訳・紹介が、中国に伝統旧戯と異なる新たな演劇の創造に資するという大きな使命を負ったように、シェイクスピア翻訳も新奇的な筋の物語という域を出て、中国新詩、新演劇ひいては新文学の創造に資する使命を持つものという高いレベルで認識されるようになった⁸⁾。1916年から1922年まで日本留学をして、後に話劇史上重要な存在となる劇作家、演出家の田漢が、最初に「ハムレット」を翻訳して、『少年中国』1921年の第6期に載せ、次に「ロミオとジュリエット」を翻訳して、『覚悟』の1923年第3期から第7期にかけて連載した。この2種の戯曲はいずれも日本語訳本を底本としていて、後に中華書局によって単行本として出版された。誤訳、漏れが多いとも指摘されるが、シェイクスピア翻訳の新時代の到来を告げるものであった。そこから始まったシェイクスピア翻訳という大きな事業は、途切れることなく、今日に至るまで、脈々と受け継がれてきた。

では、新中国が樹立される1949年までに、翻訳されたシェイクスピアの作品を、発表・刊行

された順にリスト・アップしておこう。同一の翻訳が重版され、題名が初版と異なる場合は、初版の題名のみを挙げる⁹⁾。

◎Hamlet

「哈孟雷特」田漢訳、『少年中国』1921年第6期，1922年中華書局出版

「天仇記」(文言) 邵挺訳，1924年商務印書館出版

「丹麦王子哈姆雷特之悲劇」梁実秋訳，1936年商務印書館出版

「哈夢雷特」周荘萍訳，1938年啓明書店出版

「漢姆萊特」曹未風訳，1944年(貴陽)文通書局出版，1946年(上海)文化合作股份有限公司出版

「漢姆萊脱」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Romeo and Juliet

「羅密欧與朱麗葉」田漢訳、『觉悟』1923年第3－7期，1924年中華書局出版

「若逸攻寢新彈詞」(一部) 邓以整訳，1928年新月書店出版

「鑄情」邢雲飛翻案，1938年啓明書店出版

「羅米欧與朱麗葉」曹未風訳，1944年(貴陽)文通書局出版，1946年(上海)文化合作股份有限公司出版

「柔密欧與幽麗葉」曹禺訳、『文学修養』1944年第3－4期，1944年(重慶)文化生活出版社出版

「羅米欧與朱麗葉」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎The Taming of The Shrew

「陶冶有方」誠冠怡訳，1923年燕京大学出版社出版

「驯悍記」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎The Merchant of Venice

「女律師」天笑翻案，『女学生』1911年第2期

「威尼斯商人」曾広勳訳，1924年新中華出版社出版

顧仲彝訳，1930年新月書店出版

梁実秋訳，1936年商務印書館出版

「微尼斯商人」曹未風訳，1944年(貴陽)文通書局出版，1946年(上海)文化合作股份有限公司出版

「威尼斯商人」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Julius Caesar

「羅馬大将該撒」(文言) 邵挺，許紹珊訳，1925年訳者自主刊行

「朱理垂愷撒」高昌南訳，『文芸月刊』1935年第2－3期

「該撒大将」曹未風訳，1935年商務印書館出版

孫偉佛訳，1938年啓明書店出版

「該撒遇弒記」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎As You Like It

「如願」張采真訳，1927年北新書局出版

梁実秋訳，1936年商務印書館出版

曹未風訳，1943年（貴陽）文通書局出版，1946年（上海）文化合作股份有限公司出版

「皆大歡喜」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Twelfth-Night

「第十二夜」彭兆良訳，1930年中華新教育社出版

梁実秋訳，1936年商務印書館出版

曹未風訳，1942年（貴陽）文通書局出版

朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Macbeth

「麦克倍斯」戴望舒訳，1930年金馬書堂出版

「墨克白糸與墨夫人」張文亮訳，1930年青野出版社出版

「馬克白」梁実秋訳，1936年商務印書館出版

周荘萍訳，1938年啓明書局出版

「馬克白斯」曹未風訳，1944年（貴陽）文通書局出版，1946年（上海）文化合作股份有限公司出版

「麦克佩斯」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎The Tempest

「暴風雨」（文言詩）余楠秋，王淑英訳，1935年黎明出版社出版

高昌南訳，『文芸月刊』1935年第6期

蔣鎮訳，1935年啓明書局出版

梁実秋訳，1937年商務印書館出版

曹未風訳，1942年（貴陽）文通書局出版，1946年（上海）文化合作股份有限公司出版

朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎King Lear

「李爾王」梁実秋訳，1936年商務印書館出版

「李耳王」曹未風訳，1946年（上海）文化合作股份有限公司出版

朱生豪訳，1947年世界書局出版

「黎瑯王」孫大雨訳，1948年商務印書館出版

「三千金」顧仲彝訳，『上海世界』194?年

◎Othello

「奧賽羅」梁実秋訳，1936年商務印書館出版

「奧瑟羅」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎A Midsummer Night's Dream

「仲夏夜之夢」曹未風訳，1942年（貴陽）文通書局出版

朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎The Two Gentlemen of Verona

「凡隆娜二紳士」曹未風訳，1942年（貴陽）文通書局出版

「凡隆納的紳士」曹未風訳，1946年（上海）文化合作股份有限公司出版

「維洛那二士」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎The Comedy of Errors

「錯中錯」曹未風訳，1944年（貴陽）文通書局出版

「錯誤的喜劇」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Timon of Athens

「雅典人台滿」楊晦訳，1944年（重慶）新地出版社出版

「黃金夢」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Measure of Measure

「知法犯法」邱存真訳，1944年（重慶）商羊書屋出版

「量罪記」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Antony and Cleopatra

「安東尼及枯婁葩」曹未風訳，1946年（上海）文化合作股份有限公司出版

「女王殉愛記」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Much Ado about Nothing

「好事多磨」張常人訳，1947年大東書局出版

「無事煩惱」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎All's Well that Ends Well

「終成眷屬」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎The Winter's Tale

「冬天的故事」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎Love's Labour's Lost

「愛的徒勞」朱生豪訳，1947年世界書局出版

◎The Merry Wives of Windsor

「温莎の風流娘児們」朱生豪訳, 1947年世界書局出版

◎Titus Andronicus

「血海殲仇記」朱生豪訳, 1947年世界書局出版

◎Troilus and Cressida

「特洛埃圍城記」朱生豪訳, 1947年世界書局出版

◎Pericles

「沈珠記」朱生豪訳, 1947年世界書局出版

◎Coriolanus

「英雄叛国記」朱生豪訳, 1947年世界書局出版

◎Cymbeline

「還璧記」朱生豪訳, 1947年世界書局出版¹⁰⁾

この長いリストには、公開されていない翻訳本は含まれていない。そのような公開されなかった翻訳本は実は多く存在しており、さまざまな事情で未公開のまま終わったものもあれば、1949年後に刊行されたケースもある¹¹⁾。

リストを見ると、1936年から1937年にかけて、また1942年から1947年にかけて、二回にわたり翻訳・出版がもっとも集中的に行われていたことがわかる。特に40年代は戦争の真っ最中で、環境が極めて厳しい中、これほど多量に翻訳・出版されたのは、実に感慨深い。28人に上る翻訳者の中では、朱生豪の翻訳が一番多く、1949年までに出版されたのは27種だが、その後のものも合わせると31種に上る。本人の夢もシェイクスピアの全37種戯曲を翻訳するというものであったが、32歳で病死したため、夢がかなわなかった。次に多いのは曹未風の15種で、三番目は梁実秋の8種である。

中国語のシェイクスピア全集が世に問われるまでは、長い道のりをたどった。十年経った1957年4月、台北の世界書局が台湾大学外文系教授虞爾昌の訳した10種を朱生豪訳の27種と合わせて、『シェイクスピア全集』(五巻)を出版した。上海の世界書局が朱生豪訳の三巻本を出してから実に十年の年月を経ている。中国語の『シェイクスピア全集』完成への道のりは平坦ではなかったのである。個人訳ではないが、このバージョンがその後数回にわたって台湾で再版され、よく読まれている。

1954年には、北京の人民文学出版社が12巻の『シェイクスピア戯劇集』を出版する。世界書局が出した朱生豪訳をベースとするもので、計31種が収録されているが、全面的な校訂をせず、訳されなかった史劇も欠けたままであった。その後、シェイクスピア生誕400周年記念として、人民文学出版社が大掛かりなプロジェクトを立ち上げて、全集の刊行を1964年4月23日までに実現しようと努めた。国内のシェイクスピア専門家及び経験のあるシェイクスピア翻訳者を招

き、朱生豪が訳さなかった6種の史劇と詩集4種を補完し、またすでに訳されたものに対する全面的な校訂も行った。が、いよいよ上梓するという時になって、「文化大革命」の嵐が吹き荒れ、出版の停止を余儀なくされてしまう。その後十数年の歳月が流れ、中国の政治、経済、文化などがいよいよ転機を迎えようとする1978年になって、校訂を数度繰り返された後、名実ともに全集である11巻の『シェイクスピア全集』がようやく出版された。第11巻は張谷若、楊徳豫、梁宗岱、黄雨石らが翻訳したソネットなど、詩を収める。これも複数の翻訳者によるものだが、「全集」という名にふさわしく、全編欠けるところのない、これまでに出版されたシェイクスピア作品集の中、最も完全で、質の高いバージョンである。ちなみに朱生豪が訳さなかった6種の史劇が次のように補完されている。

『亨利五世』(The Life of King Henry v) 方平訳

『亨利六世』上(The First Part of King Henry vi)章益訳

『亨利六世』中(The Second Part of King Henry vi)章益訳

『亨利六世』下(The Third Part of King Henry vi)章益訳

『理查三世』(The Tragedy of King Richard III) 方重訳

『亨利八世』(The Famous History of the Life of King Henry viii) 楊周翰訳

90年代に入ると、中国戯劇出版社、新世紀出版社、訳林出版社、河北教育出版社など北京や地方の出版社によって、全集が十数回以上、出版されている。ほとんどが朱生豪訳をベースに、ほかの数人の訳あるいは校訂が足されるという、基本的に人民文学出版社のバージョンを踏襲したものである。その中で、1995年の改革出版社の全集と2004年の新華出版社の全集は一風変わったものである。前者は「連環画」という中国式の絵本版で、リアルなタッチで描かれる絵の下に、説明の文字が二、三行書かれている。その説明の文字がこれまでの訳者の誰のものでもなく、「文字」を担当する常振国がコマごとに筋を概説する。後者も絵本だが、いわば今風のマンガ本で、人物の特徴が誇張されて描かれたカリカチュア的な「絵」が紙面全体占め、「文」は最小限に抑えられている。「文」の担当者もいるが、その文章もまたこれまでの訳者の誰のものでもない。「全集」とは冠されているが、絵を主な表現手段としていて、ほかの文字バージョンの全集とはまったく質の異なる別の物である。

ここで特記すべき全集は、1998年訳林出版社が出版した8巻の『シェイクスピア全集』及び2000年に河北教育出版社が出版した12巻の『新シェイクスピア全集』である。

訳林出版社の全集は朱生豪訳を基本としながらも、専門家、翻訳家たちによる大規模な校訂、補完を行っている。朱生豪が底本としたオクスフォード版を元に、1974年及び当時最新の1997年のリバーサイド版(The Riverside Shakespeare)を参考し、「兩個高貴の親戚」(The Two Noble Kinsmen)、「愛徳華三世」(Edward III)と2種の戯曲及び詩一篇、それに戯曲「托馬斯・莫爾爵士」(Sir Thomas More)の断片も収録する。外典とされた作品を収録することで¹²⁾戯

曲数は39に達し、現存する作品のうち、シェイクスピア作と認定された作品を全部網羅することになり、現時点では最も完全な「全集」となった。専門家による詳細な解説、作品ごとの挿絵、国際シェイクスピア研究の最新成果を参考にした注釈などなど、いずれもこの全集の新しい特徴といえる。

『新シェイクスピア全集』は詩体を用いた全集で、訳の大多数は方平によるものである（24種担当、そのうち共訳3種、校訂1種）。これは朱生豪以来のシェイクスピア翻訳の最新成果と称えられ、このため、香港翻訳学会は学会成立30周年に際し、主編者の方平に「香港翻訳学会名誉会員」の号を授与した。自らが詩を書き、後に中国シェイクスピア研究会会長を務め、数度にわたる朱生豪訳本の校正、補完にも参加した方平の最初に翻訳したシェイクスピア作品は、実は詩集『ピーナスとアドーニス』であった。詩体で書かれるシェイクスピア戯曲を詩体で翻訳するのがかねてからの彼の夢で、この新全集はその夢を形にしたものである。詩体でシェイクスピア作品を翻訳する試みは、中国では早くからなされていた。1929年に、詩人朱維基が散文ではなく詩で「オセロ」の一部を翻訳したのが恐らく最初である。詩専門の翻訳家孫大雨はシェイクスピア戯曲の韻律を研究し、1934年から韻文体で「リア王」を翻訳し、1948年に注釈の付けた単行本を出版した。後に彼が翻訳した別の4種の作品も、韻文体となっている。そのほかにも、劇作家曹禺が詩体で翻訳した「ロミオとジュリエット」は当時から高い評価を得ていたし、新中国成立以降、詩人下之琳は詩体で4大悲劇を翻訳し、広く認められている。しかしそれらいずれも単発の作品で、全集の規模ではなかった。『新シェイクスピア全集』は規模が大きく、複数の翻訳者がいるが、訳文全体が韻文に統一されている。長い間、散文体の訳文が最も読まれていたので、方平らの詩体の訳文が新鮮に感じられる。もっとも典雅な訳文と評価されるゆえんである。

複数の人ではなく、一人でシェイクスピアの37種の戯曲を全訳したのは台湾に渡った散文家、文学評論家の梁実秋である。胡適の呼びかけにより、1930年に翻訳を始めて37年間、平均年に1種のペースで、この大事業をやり遂げ、その成果は1967年、台湾の遠東図書公司によって刊行された。これは台湾では大変な人気を博し、一部の大学は学生の参考書目に指定する。2001年、北京にある中国広播電視公司が遠東図書公司から版權を買い取り、英漢対訳版の全40集を出版した。これにより大陸でも梁実秋訳が読めるようになった。

三

1930年代には、ある程度、組織的にシェイクスピア作品の翻訳・出版をやろうという動きがあった。1930年末、胡適は「中華教育文化基金董事会」の翻訳委員会に就任すると、さっそく大規模なシェイクスピア翻訳に乗り出した。彼は詩や散文に長ける聞一多、徐志摩、葉公超、

梁実秋と陳西滢の五人に翻訳を依頼し、五年から十年にかけて計画を完成させるというのであった。1930年12月23日付けの梁実秋宛の手紙では、次のようになっている。

上海にいた時、(徐) 志摩とも相談したが、(聞) 一多及びあなた、(陳) 通伯(注:陳西滢)、(徐) 志摩、(葉) 公超の五人に、シェイクスピア全集の翻訳をお願いしたい。五年から十年の予定で、シェイクスピア全集の定本を作ることを期する。(中略) もっとも重要なのは如何なる文体でシェイクスピアを翻訳するかを決めることである。僕は、まず一多、志摩らに韻文体を試してもらい、あなたと伯通には散文文体を試してもらおうと思う。試して見なければ全部、散文文体を採用するか、あるいは二つの文体を併用するかを決められないだろう。(中略) 報酬の方は、最高の報酬にすべきだろう。この種の本は売れ行きが悪くないはずだから、将来の著作権も保留できるかもしれない¹⁹⁾。

翻訳者、時間、文体、報酬、売れ行き、著作権など、かなり詳細な内容に言及されている。これほど詰めた計画をしたプロジェクトは、本来なら、大いに期待できるはずだが、しかし実際のところ、梁実秋以外の四人はその後、各自の事情で誰もが翻訳に着手しなかった。梁実秋は胡適の呼びかけに賛同し、その上八項目に及ぶ具体的な翻訳計画を立てた。日中戦争が勃発する1937年までに、彼一人だけが4種の悲劇と4種の喜劇を、そして戦時中はまた歴史劇1種の翻訳を完成した。後に台湾に渡って、厳しい環境の中でも梁実秋がシェイクスピア全集の翻訳をやり遂げて、30数年前の夢がようやく形になったのである。梁実秋の翻訳は白話散文文体で、原文を忠実に全訳、直訳する点が大きな特徴だと言えよう。訳本に多くの注釈を入れることで、また英語学習、シェイクスピア研究などの面においても、参考価値が高い。

ほとんど個人的な行動による翻訳ももちろんあった。前出のリストで何度も名前を見せる曹未風はその中の一人である。曹未風(1911年—1263年)は、浙江嘉興の人で、1930年からシェイクスピア戯曲の翻訳に着手し、翻訳史上シェイクスピアの全訳を計画した最初の翻訳者である。彼の訳したものは内陸にある貴陽文通書局によって、1942年から1944年にかけて『シェイクスピア全集』と題し出版され(全11種)、終戦後の1946年、その一部の10種は、また上海の文化合作股份有限公司によって『曹訳シェイクスピア全集』として出版された。タイトル「全集」だが、実が伴っていない。

特に注目したいのは朱生豪である。彼はすでに翻訳されている作品を自らの手で再訳し、また、誰もが翻訳したことのない作品にも手をつけた。その翻訳の規模は、これまで最大のものであった。曹未風と同郷の朱生豪(1912年—1244年)は、1933年之江大学卒業後、商務印書館、中華書局につぐ大手出版社「世界書局」の英文編集員となる。1935年春、編集部主任の詹文滄が彼にシェイクスピアの翻訳を提言したことをきっかけに出版社側の同意を得た上、1936年、朱生豪が翻訳に正式に着手した。最初の戯曲は「テンベスト」で、秋にそれを完成させ、早速「真夏の夜の夢」の翻訳に移った。翻訳自体は個人的な行動とはいえ、朱生豪には明白な翻訳計画

があった。彼の夢は自分一人でシェイクスピア全集を翻訳することであった。しかし戦争開始後、上海から田舎に逃げることを余儀なくされ、原稿は何度も戦火に焼かれた。その後、健康状態が著しく悪化し、1944年12月、彼が最も力を入れようとしていた英国史劇6種及び詩に手をつけないうちに、32歳の若さでこの世を去った。戦争の影響で、翻訳されたものの出版も遅れてしまい、1936年秋に最初の翻訳ができてから、実に十年近くの歳月が流れて、1947年になって、はじめて世界書局によって『シェイクスピア戯劇全集』（全三巻）が刊行された。「戯劇全集」とは、「戯曲全集」のことで、出版社としてはおそらくシェイクスピアの37種の戯曲をすべて出す予定だったが、結局第三巻で止まり、朱生豪の翻訳した27種の作品だけが「全集」となった。「全集」とはこれも名ばかりだった。

朱生豪の翻訳は、1巻本のオクスフォード版（The Complete Works of William Shakespeare, The Oxford Standard Authors Edition 1905）を底本とする。ブランク・バース（Blank Verse）で書かれるシェイクスピアの戯曲を、どのような文体を用いて翻訳するかは、すべての翻訳者が最初に直面する問題である。朱生豪は散文を用いて翻訳した。彼には中国古典文学の素養があり、中国語の訳文が洗練されていて、流暢な語彙が豊富な上、文体は優雅である。そのためか、上演には不向きとも言われる。または、一部には誤訳、削除があり、特に喜劇の翻訳においては削除が多いと指摘されている。これらの不備は後に方平、呉興華など数人の努力によって補われ、「朱生豪訳、〇〇校訂」のパターンが概ね定本となっている。自らも台湾で全集の翻訳に携わった翻訳家虞爾昌は、朱生豪の右に出る者はいないと、彼の訳文を高く評価をする。前述したように、中国では現在、20社近くの出版社がシェイクスピアの作品全集を出版しているが、絵本型の全集と方平主編の『新シェイクスピア全集』を除いて、いずれも朱生豪の訳を基本ベースとして採用している。死後数十年たった今も、朱生豪の訳文は依然として生きつづけていると言えよう。

四

曹未風、朱生豪、梁実秋などシェイクスピア全集の翻訳を目指す翻訳者以外に、一作か二作、単発的に翻訳を行う者もいる。その中には、詩人もいれば（戴望舒、孫大雨）、劇作家もいる（田漢、曹禺）。彼らの翻訳の動機は、シェイクスピア作品に対する熱愛によるものもあれば、また上演のためという場合もある。文学作品としての翻訳が多い中、最初から上演の利便性に注目する人に、劇作家曹禺がいた。

当時は、成都のあるプロの劇団が、シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」を上演しようとしていた。張駿祥氏を演出者に招くことができたが、張氏は上演に適した訳本がまだないと思い、僕に翻訳し直すようにと依頼した。僕はこの要求に従い、敢えて翻訳に

踏みきった。目的は上演に都合のいいものを作ることであった。(中略)所々は、人物、動作、環境に対する自分なりの解釈を加えたが、当時ではあくまで、役者たちの脚本理解に役立てたかったのである¹⁴⁾。

と、上演のために翻訳を行ったと言明している。それどころか、上演のために、手まで加えたようである。実は彼以前に、同じ劇作家の田漢の訳、それに翻案本を含めて、「ロミオとジュリエット」には、少なくとも四つの訳本が既に存在していた。曹禺が敢えて再訳に踏み出した行動の裏には、外国戯曲翻訳における一種の新しい傾向がうかがえるのである。

近代劇の舞台建設が、中国では「五四」新文化運動以降から始まり、成熟するには時間がかかった。中心的な役割を果たす演出家、大掛かりなセット、高水準の演技などを必要とする多幕劇の上演は、長い間、できなかった。シェイクスピア作品を例とすれば、1930年まで、学校など限られた場所で行われる学生演劇を除いて、一般社会に向けて公演を行ったシェイクスピアの作品は、戯劇協社が1929年に上演した「ベニスの商人」一本を数えるのみである。20年代を通して、一幕ものの翻訳自体が多かっただけではなく、上演もほとんど一幕ものであった。多幕ものの翻訳がなかったわけではないが、そもそも文学作品として翻訳されている性格が強く、翻訳者からすれば、上演できるかどうか、あるいはいかに上演向きの訳し方をするかなどは、問題ではなかった。原作品の文学的、社会的意義に加えて、芸術性を兼ね備えれば、それで最高の選択対象となって翻訳されるのである。一方、舞台で演劇の実践に携わる人たちは、創作劇がまだまだ未熟な状況の下、膨大な量を有する翻訳劇を目の当たりにして、「脚本荒」(脚本不足)を痛感していた。つまり、戯曲の翻訳とその上演はほとんど接点がなく、ほぼ平行線をたどっていたと言ってもいい状態であったのである。

このような状況は1930年代に入って徐々に変わりはじめた。中国における近代劇の舞台建設が次第に完成に近づくにつれ、舞台が正確に「現在」を表現することができるようになった分、一幕ものではなく、時間的に一回の公演に適した、内容の濃い多幕ものを必要とするようになった。舞台上演のために戯曲を選んで翻訳するという人が増えはじめ、劇団も自分にあった脚本の翻訳を翻訳者に積極的頼んだりすることも増えてきた。そのため、戯曲が翻訳されてからまず上演され、それから掲載・出版されるというかつて無かった新しい流れが現れて、翻訳と上演があたかも平行線にあったような局面を一変させた。中法大学教授陳綿の1930年代の戯曲翻訳は、まさにその代表例といえる。彼の翻訳はフランスものが多いが、ほとんどプロの話劇団「中国旅行劇団」の依頼に応じ、その上演のために行われた。その大多数が上演された後に、初めて商務印書館によって刊行されたのである¹⁵⁾。一方では、成熟した舞台も積極的に多幕ものを上演し、30年代半ばぐらいには、「中国旅行劇団」、「戯劇協社」、「上海業余劇人協会」をはじめとする劇団は、既に難易度の高い戯曲をこなせるようになっていた。

この傾向は四十年代にも続き、シェイクスピア作品の翻訳にも現れているのである。戦時中に、

多くの話劇団が内陸の都市に移り、あるいはそこで新たに結成され、ある程度落ち着いてからは、生計のためにも、公演を行わなければならなかった。レベルの高いプロ劇団が多い中、シェイクスピア戯曲を上演するのも自然の流れであった。曹禺の翻訳は、このような背景の中で行われたのである。彼は詩体を用いて、「ロミオとジュリエット」を再訳した。自らも戯曲を書き、舞台の実際をよく知る曹禺は、厳しい環境の中にもかかわらず、詩体という散文よりさらに難しい文体をこなし、公演の実現に貢献しただけではなく、詩体によるシェイクスピア翻訳にいいモデルを提示したと、高い評価を得た。文学作品としてのシェイクスピアの戯曲を翻訳する朱生豪、曹未風、梁実秋らと比べて、曹禺のモチーフは最初から違うことが明白である。

翻訳のほかに、シェイクスピア戯曲を元に、早くから翻案作品も盛んに作られてきた。その形はさまざまであった。林纾のような散文体のほかに、小説に、ダイジェストにされたり、現代白話のほかに、邵挺、許紹珊らのように文言にされたりする。また、戯曲の形で、文体も現代白話になっているが、物語自体が中国風に書き換えられて、あたかも中国で起こった話のようで、原作を踏まえたとは思わないほど精巧に翻案されるものもある。前述の「マクベス」は、李健吾翻案の「王徳明」（初演時名「乱世英雄」）が有名である。

李健吾のこの翻案作品は1945年に、まず「苦幹劇団」によって初演され、後に雑誌『文章』に掲載された。上演が先で、掲載（出版）が後という順番は、翻訳（翻案）が上演のために行われていた可能性を示唆している。曹禺の翻訳と同じように、上演優先という姿勢は、まさにこの時代における外国戯曲翻訳の基本的趨勢で、20年代のそれとは一線を画していた。

もちろん、「マクベス」だけに翻案作が存在するわけではない。「ロミオとジュリエット」に邢雲飛の「鑄情」があり、「ベニスの商人」に天笑の「女律師」があるように、シェイクスピアの戯曲を元にした翻案作は実に多い。翻案という過程を経て、原作のどこがどのようにして変化したかは、興味深い問題である。ここでは詳しく触れないが¹⁶⁾、シェイクスピア戯曲にまつわる翻案現象、翻案作品などについて、今後はさらに掘り下げて、研究を深めたいと思う。

シェイクスピア作品の翻訳は、中国においては、長期にわたる一大事業であった。林纾のような翻訳から、現代文体で、戯曲の形式がきちんと整った翻訳ができるまでには、さまざまな翻訳法があったし、さまざまな翻訳者がいた。中国語に翻訳された外国の戯曲作品の中では、シェイクスピアの作品が一番多いことは言うまでもないが、それはまた実際に今も演じられているのである。

本稿では、シェイクスピア作品の翻訳・出版、特に全集の出版経過を詳しく見てきた。中国における外国戯曲の翻訳・出版の全体の流れの中で見たこの過程は、特徴的なもの、一般的なものを、さまざまに兼ね備えていて、興味深い過程でもあった。

注

1. 「当以利沙伯时, 所著诗文, 美善俱尽, 至今无以过之也。儒林中如锡的尼, 斯本色, 拉勒, 舌克斯毕, 倍根等, 皆知名士。」戈宝权「沙士比亚的作品在中国」から引用、『世界文学』1964第5期
2. 上海図書館所蔵1904年版『吟迦燕語』による。
3. 鄭正秋編：『新劇考証百出』, 上海中華図書集成公司, 1919年
4. 陳白塵, 董健主編『中国現代戯劇史稿』は, この劇を「ハムレット」の翻案とする。中国戯劇出版社, 1989年
5. 1872年11月創刊, 1875年1月終刊まで計28巻刊行。1873年1月, 第3巻にて翻訳小説を掲載。
6. 「似小説而非小説, 且不如小説好看。」田禽：『中国戯劇運動・三十年来戯劇翻訳之比較』, 商務印書館, 1944年
7. 中国では外国の戯曲は外国の小説と同じく, 最初は, 読み物として翻訳されていた。それは舞台とは接点を持たず, 実際に演じられたものは劇団関係の人が訳したもので, 別系統で行われていた。「五四」後の翻訳者達も舞台に関心を持たずに翻訳を行い, 翻訳された作品は文語的言い回しが多いという読み物としての性格が強く, 上演には不向きだった。
8. 「中国新詩的成功, 新戯劇的成功, 新文学的成功, 大可拿翻译莎士比亚做一个起点。」余上沅：「翻訳莎士比亚」, 『新月』1930年5月
9. 例えば朱生豪のTimon Of Athensは, 初版時, 「黄金夢」との題だったが, 1978年出版の人民文学出版社バージョンでは「雅典的泰門」の題になっている。
10. リストを作るのに当たって, 次の資料を参考にした：『漢訳東西洋文学作品編目』, 真善美書店, 1924年；「中文戯劇書目」, 『戯劇』2巻6期所録, 1931年6月；『民国時期総書目・外国文学』, 書目文献出版社, 1987年；『中国現代文学期刊目録汇编』, 天津人民出版社, 1988年；上海図書館近代文献図書目録, 等。
11. 例えば, 朱生豪が生前31種翻訳したが, 1949年までに刊行されたのは27種だけだった。
12. Shakespeare Apocrypha, シェイクスピアの作品であるかどうかと, 断定のできない一群の作品。
13. 「頃在上海时也与志摩谈过, 拟请一多与你, 通伯, 志摩, 公超五人商酌翻译莎士比亚全集的事。期以五年十年, 要成一部莎氏集定本。・・・最重要的是决定用何种文体翻译莎翁。我主张先由一多, 志摩试译韵文体, 另由你和通伯试译散文体。试验之后, 我们才可以决定, 或决定全用散文, 或决定用两种文体。报酬的事, 当用最高报酬。此项书销路当不坏, 也许还可以将将来的版权保留。」梁实秋：「懷念胡適先生」, 『看雲集』, 台北皇冠出版社, 1984年。本稿が見たのは陳子善編『梁实秋文学回憶録』に引用されたもの。岳麓書社, 1989年
14. 「那时在成都有一個职业剧团, 准备演出莎士比亚的《柔密欧与朱丽叶》, 邀了张骏祥兄做导演得当。他觉得还没有适宜于上演的译本, 约我重译一下。我就根据这个要求, 大胆地翻译了, 目的是为了便于上演。・・・有些地方我插入了自己对人物, 动作和情境的解释, 当时的意思不过是为了便利演员去理解剧本。」曹禺：『柔密欧与朱丽叶・訳者前序』, 重慶文化生活社, 1944年
15. 例えば, 陳綿が「中国旅行劇団」のために翻訳した「茶花女」(椿姫)が1935年4月に初演され, 1937年に商務印書館によって出版された。「緩期還債」(Jeffrey Dell作Payment Deferred)が1936年2月に初演され, 1937年に商務印書館によって出版された。
16. 筆者に, 李健吾の翻案した「王徳明」について詳しく検討した論文があるので, 参照されたい。夏嵐：「中国話劇史上の翻案現象について---1949年までの場合」, 『富山大学人文学部紀要』第43号, 2005年8月